

福井県衛生環境研究センター活動報告 概要

発表演題名	福井県で分離された腸管出血性大腸菌の毒素遺伝子型
発表学会名	平成 24 年度獣医学術学会年次大会
発表者名	永田暁洋
開催場所	大阪市 大阪国際交流センター
発表日時	平成 25 年 2 月 9 日 (土) ~ 11 日 (祝)
発表内容	<p>腸管出血性大腸菌 (EHEC) 感染症事例で、<i>stx1+2c</i> のペロ毒素遺伝子を保有する 0157 が分離された。<i>stx2c</i> 遺伝子は毒素の力価が低く、医療機関で実施されるイムノクロマト法や RPLA 法では検出できない場合があることが知られている。そこで、福井県内における変異型 <i>stx2</i> 遺伝子保有大腸菌の分離状況等を調査した。</p> <p>材料は 2008 年 1 月から 2011 年 12 月に福井県で分離された EHEC の 201 株とした。血清型別および 12 剤の薬剤感受性試験を実施した。また、変異型 <i>stx2</i> (2c、2d、2e、2f) の検索を実施した。<i>stx2c</i> を保有する株は、PCR-RFLP で型別した。さらに、<i>Xba</i> によるパルスフィールド・ゲル電気泳動 (PFGE) を実施した。</p> <p>血清型は、0157:H7 が 130 株、0157:HNM が 32 株および 026:H11 が 14 株等であった。薬剤耐性状況は、Su17.4%、SM15.9%、ABPC15.4%および TC8.0%の順で耐性を示した。変異型 <i>stx2</i> 遺伝子については、0157:H7 の 25 株、0157:HNM の 32 株および 08:H19 の 1 株の計 58 株から <i>stx2c</i> が検出された。<i>stx2c</i> が検出された株の 41.4%は、<i>stx1</i> を保有しない株であった。PCR-RFLP の結果、<i>stx1+stx2vha</i> が 32 株および <i>stx2vha</i> が 20 株等と判定された。変異型 <i>stx2</i> 遺伝子保有株に特徴的な傾向は見られなかったため、医療現場では変異型 <i>stx2</i> 遺伝子保有株を見逃さないよう注意が必要である。</p>